

■清田緑小学校の実践

(1) 研究内容

札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」において、アイヌ文化・歴史やアイヌ民族の人権などをアイヌの方から直接学ぶ学習

(2) 学習活動を通して育てたい力

- ・アイヌの文化に直接触れ、アイヌ民族の歴史や人権について理解することにより、互いにかげがえのない人間としての尊厳を認め合い、一人一人が自他の生命を尊びあらゆる偏見や差別をなくし、心豊かにたくましく生きる力を育む。

(3) 実践の内容

【実践①】「札幌市アイヌ文化交流センター『サッポロピリカコタン』の活用」について

○ねらい

- ・アイヌの方から直接話を聞いて歌や踊り、遊びを体験したり、施設や展示物などを見学したりすることで、アイヌ文化についての理解を深める。

○学習内容

- ① アイヌの方からお話を聞く。(ことばについて、衣装について、その他)
- ② 歌と楽器の演奏を聴く。
- ③ 踊りを紹介してもらい、自分たちも一緒に踊ってみる。
- ④ アイヌの子どもたちの遊びを体験する。(輪投げ、縄とび など)
- ⑤ チセ(家)を見学する。
- ⑥ 展示室を見学して、各自調べ学習をする。
- ⑦ 体験したり調べてきたりしたことをもとにして、レポートにまとめる。

(4) 成果と課題

① 成果

子どもたちの学習にとって本物とふれ合うことのできる機会は何よりも貴重である。きれいに整えられた「サッポロピリカコタン」の施設、展示物、

そして直接かかわっていただいたアイヌ民族の方々は、子どもたちに程よい緊張感の中、本物の歴史と文化を伝えてくれた。

中でも歌や楽器の演奏、踊りの実体験は、教室での学習では得られないもので、子どもたちの心に深く残った。

また、遊びの体験を通して、自分たちの遊びとの共通点を見出だし、親しみを感じることができた。

屋外では家や舟など実物の見学ができ、その大きさや使い方などを実感することができた。

② 課題

本校4年生は、児童数174名、5学級という規模である。前半はホールでの説明と踊りの体験、そして後半は半分ずつに分かれての遊び体験と施設見学という流れで行われたが、やはり少し窮屈さを感じた。大規模校であるがための感想ではあるが、少人数での活動、一人一人の体験が保障されるプログラムを充実させていくことが望まれるところである。

